

研究用

Takara

SARS-CoV-2 Direct Detection RT-qPCR Kit

説明書

(2020年10月27日改訂)

本製品は研究用試薬です。環境調査や疫学調査などに使用します。
生体試料を用いた SARS-CoV-2 感染の診断補助には、体外診断用医薬品 Takara SARS-CoV-2 ダイレクト PCR 検出キット (製品コード RD001/RD003) をご使用ください。

本製品は、新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) を検出するためのリアルタイム RT-PCR キットで、N遺伝子の2カ所 (N1、N2) をターゲットとしています。

【本製品のプライマー・プローブ配列について】

アメリカ疾病予防管理センター (CDC) 発行「2019-Novel Coronavirus (2019-nCoV) Real-time rRT-PCR Panel Primers and Probes」(Effective: 24 Jan 2020) に記載されたプライマー・プローブ配列を採用しています。

遺伝子領域	プライマー・プローブ名	プライマー・プローブ配列 (5' → 3')
N1	2019-nCoV_N1-F	GACCCCAAATCAGCGAAAT
	2019-nCoV_N1-R	TCTGGTTACTGCCAGTTGAATCTG
	2019-nCoV_N1-P	ACCCCGCATTACGTTTGGTGGACC
N2	2019-nCoV_N2-F	TTACAAACATTGGCCGCAA
	2019-nCoV_N2-R	GCGCGACATTCGAAGAA
	2019-nCoV_N2-P	ACAATTTGCCCCAGCGCTTCAG

※ N1、N2 ともプローブの蛍光標識は、Cyanine 5 / ダーククエンチャーです。

【特長】

- RNA 精製は不要
サンプルと前処理試薬の混合液を熱処理するだけの簡単な前処理でリアルタイム RT-PCR への添加溶液を調製できます。
- 2 領域同時検出でより高感度かつ特異的に検出
2カ所の遺伝子領域をターゲットとして同時検出するため、高感度で特異性の高い検出が可能と考えられます。
- 鋳型持ち込み量が多く高感度に検出
リアルタイム RT-PCR の鋳型として初発サンプル 8 μ l 相当を持ち込むため、精製 RNA を用いた場合と同等の高感度検出が可能です。
- 前処理から検出まで 1 時間以内、迅速に判定可能
所要時間は、前処理が約 10 分、リアルタイム RT-PCR が約 50 分の迅速な検査法です。

※ 本製品の製品化にあたっては、群馬パース大学大学院 木村博一教授に監修いただきました。

I 内容 (1,000 回分)

【Package 1】

簡易抽出試薬

Solution A 4 ml

RT-qPCR 試薬

RT-qPCR Mix* ¹	2 ×	12.5 ml × 2
Primer/Probe Mix (SARS-CoV-2)* ²	10 ×	5 ml
RNase Free H ₂ O		20 ml
ROX Reference Dye* ³	50 ×	1 ml
ROX Reference Dye II* ³	50 ×	1 ml
EASY Dilution (for Real Time PCR)		20 ml

【Package 2】

Positive Control

Positive Control RNA (US N1/N2)*⁴ 1 × 10⁷ copies/μl 40 μl × 5

* 1：酵素、基質等を含みます。

* 2：蛍光標識プローブを含んでいるため、遮光に留意してください。

* 3：蛍光物質を含んでいるため、遮光に留意してください。

* 4：RNA の分解を抑えるために、凍結融解の繰り返しを避け、- 80℃で保管してください。

II. 保存

Package 1：-20℃

Package 2：-80℃

III. 本製品以外に必要な試薬、機器など (主なもの)

【器具】

- ・ マイクロピペット
- ・ マイクロピペット用チップ (疎水性フィルター付)
- ・ リアルタイム PCR 用のチューブ* 等

*：プロトコル A では、前処理操作の後でチューブの蓋を取り替える必要があります。チューブと蓋が一体型となったチューブを使用する場合は、プロトコル B で実施してください (「VII. 操作」参照)。

【機器】

リアルタイム PCR 装置 (Cy5 を検出可能なもの)

- Thermal Cycler Dice® Real Time System III (Cy5) with PC (製品コード TP990)
- Thermal Cycler Dice Real Time System II (製品コード TP900/TP960：終売)
- Thermal Cycler Dice Real Time System *Lite* (製品コード TP700/TP760)

※ TP900/TP960/TP700/TP760 は、Cy5 オプションフィルターの追加が必要です。

Filter Unit (Cy5) for Thermal Cycler Dice Real Time System (製品コード TP803)

Filter Unit (Cy5) for LED (製品コード TP703)

- CronoSTAR™ 96 Real-Time PCR System シリーズ (製品コード 640231/640232)
- CronoSTAR Portable Real-Time PCR System シリーズ (製品コード 640247/640249)
- CFX96 Touch Deep Well Real-Time PCR Detection System (Bio-Rad 社)
- CFX96 Touch Real-Time PCR Detection System (Bio-Rad 社)
- LightCycler 96 System/ LightCycler 480 System II (Roche Diagnostics 社)
- Applied Biosystems 7500 Fast Real-Time PCR System (Thermo Fisher Scientific 社)
- QuantStudio 5 Real-Time PCR System (96-well, 0.2 mL block) (Thermo Fisher Scientific 社)

[注意] 上記の機種につき、反応液量 50 μl でのリアルタイム RT-PCR の反応性確認を行っています。

IV. 使用に際して

本製品を使用する際の注意事項です。使用前に必ずお読みください。

1. 使用目的
本製品は研究用試薬です。
2. 測定結果
本製品は遺伝子検出であるため、不活化されたウイルスも検出されます。また、Primer/Probe の配列内に遺伝子の変異や欠損／挿入が生じた際には、検出できない場合があります。
(反応結果により発生する問題に関して、タカラバイオ株式会社は一切の責任を負いません。)
3. 廃棄
試料は感染性を有するものとして、各施設の安全規定に従って廃棄してください。作業区域は常に清潔に保ち、サンプルまたは検査に用いた器具等は高圧蒸気滅菌器を用いて 121℃で 20 分間以上加熱滅菌処理、または次亜塩素酸ナトリウム液で処理を行った上、各施設の感染性廃棄処理マニュアルに従って処理してください。試薬を廃棄する際は多量の水で流してください。プラスチックなどの試薬容器ならびに器具は、廃棄物の処理および清掃に関する法律に従って処理してください。

V. 操作上の注意

1. RT-qPCR Mix を使用する際には、泡立えないよう穏やかに転倒混和し、試薬を均一にしてから使用してください。試薬が完全に混和されていない場合、十分な反応性が得られなくなります。ボルテックスによる混合は行わないでください。なお、保存中に沈殿を生じた場合には、軽く手で温めるか室温にしばらく置いた後、転倒混和することで完全に溶解します。必ず均一に混合し、軽くスピンドウンしてからご使用ください。
2. RT-qPCR Mix 以外の各試薬は、溶解後よく混合し、軽くスピンドウンしてからご使用ください。
3. Primer/Probe Mix および ROX Reference Dye/Dye II は、遮光に留意してください。
4. 試薬の分注を行うときは、必ず新しいディスポーザブルチップを用い、サンプル間のコンタミネーションを防止してください。
5. 万一、サンプルやプローブ、プライマーが核酸分解酵素（ヌクレアーゼ）の混入により分解されると、正確な検出ができません。実験者の汗や唾液からもヌクレアーゼが混入する場合がありますので、作業過程ごとにディスポーザブルの手袋着脱およびマスク着用など、操作には細心の注意を払ってください。
6. コンタミネーション防止のため、リアルタイム RT-PCR 反応液の調製は操作毎にエリア分けをして、物理的に隔離することを推奨します。「VIII. 補足: エリア分けについて」をご参照ください。どのエリアにおいても、増幅産物の入ったチューブの開閉は避けてください。
 - エリア 1: 反応液の調製を行います。
 - エリア 3: 反応液と鋳型の混合を行います。本製品では増幅反応と検出をリアルタイムで行うため、反応終了後の増幅産物を電気泳動などで解析する必要はありません。実験室内の核酸のコンタミネーション発生の原因となりますので、増幅産物をチューブから取り出すことはおやめください。
7. リアルタイム PCR 装置の取扱いは、それぞれの装置の取扱説明書に従ってください。
8. 本製品はリアルタイム PCR 装置での解析によって結果判定を行います。リアルタイム PCR 装置の各種 Auto 機能が適正に働かなかった場合、誤判定の原因になります。必要に応じてリアルタイム PCR 装置の取扱説明書に従い、Manual 設定を行ってください。

VI. サンプルの採取と保存

本製品では核酸精製を行いませんので、タンパク質変性剤やエタノール等を含む溶液にサンプルを懸濁した場合、PCR 反応に影響を及ぼす可能性があります。必要に応じて、本製品との適合性 (PCR 阻害の有無など) を事前に確認した上でご使用ください。

VII. 操作

前処理からリアルタイム RT-PCR 反応までの操作には、以下の 2 通りの方法があります。

プロトコール A

前処理とリアルタイム RT-PCR を同じチューブで実施します。

1. 前処理を 10 μ l の液量で実施する。
2. 前処理後の溶液に 40 μ l のリアルタイム RT-PCR 反応液を添加する。

プロトコール B

前処理とリアルタイム RT-PCR を別々のチューブで実施します。

1. 前処理を 20 μ l の液量で実施する。
2. 別のチューブにリアルタイム RT-PCR 反応液を 40 μ l ずつ分注しておき、前処理後の溶液を 10 μ l を分取して添加する。

実際に使用する機材等に合わせて適切なプロトコールを選択してください。

たとえば、一度に多サンプルの検査を 96 ウェルプレートや 8 連チューブを使って実施される場合は、前処理とリアルタイム RT-PCR を別々の容器で実施する「プロトコール B」が便利です。

次頁以降にそれぞれのプロトコールの操作法の詳細を示します。

■プロトコール A

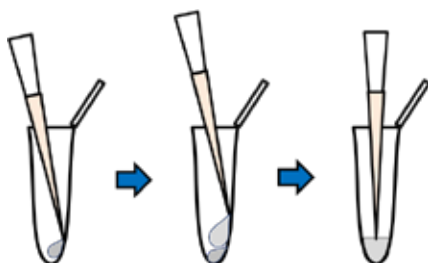
VII-1. 前処理 (核酸の簡易抽出) (BSL2 実験室内で実施)

- 1) サンプルと前処理試薬の混合 (安全キャビネット内で実施)
 - (1) サンプル数分の qPCR 用チューブを用意する。
 - (2) qPCR 用チューブに Solution A を $2 \mu\text{l}$ ずつ分注する。
 - (3) (2) の qPCR 用チューブにサンプルを $8 \mu\text{l}$ 添加し、数回のピペッティングで混合する (または、チューブの蓋をした後にタッピングで混合し、スピンドアウンする)。

[1 反応分の混合液]	使用量
Solution A	$2 \mu\text{l}$
サンプル	$8 \mu\text{l}$
Total	$10 \mu\text{l}$

[操作上の注意点]

液量が少ないので、(2) のステップで Solution A は、チューブ壁の下の方に分注してください。その後、(3) のステップでサンプルを Solution A と同じところに添加し、そのまま数回ピペッティングして溶液を混合 (または、チューブの蓋をした後にタッピングで混合) します。



- 2) 室温で 5 分以上静置後、qPCR 装置で以下の熱処理を行う。

95°C 5 分 ($\rightarrow 4\sim 10^{\circ}\text{C}$ *)

* : 加熱処理後は、速やかにリアルタイム RT-PCR 反応液を添加し、反応を開始してください。前処理済の溶液を一時保存する場合は、氷上または 4°C で保存してください。

VII-2. リアルタイム RT-PCR 反応

【コントロール反応について】

結果の判定を正しく行うため、陰性・陽性コントロール反応を行ってください。
それぞれ、以下の溶液をリアルタイム RT-PCR 反応の鋳型として添加します。

陰性コントロール (NC)

RNase Free H₂O 10 μ l

陽性コントロール (PC)

Positive Control RNA (US N1/N2) (1/100 希釈) * 1 μ l

RNase Free H₂O 9 μ l

* : 2 μ lのPositive Control RNA (US N1/N2) に 198 μ lのEASY Dilution (for Real Time PCR) を加えて調製した 1/100 希釈溶液を使用します (用時調製)。

- 1) リアルタイム RT-PCR 反応液のマスターミックスの調製 (エリア 1 で実施)
以下の組成で、必要数 (サンプル数 + NC, PC) + α のマスターミックスを氷上で調製する。

【ROX Reference Dye を使用しない場合*1】

[1 反応分のマスターミックス]

試薬		使用量
RT-qPCR Mix	2 \times	25 μ l
Primer/Probe Mix (SARS-CoV-2)	10 \times	5 μ l
RNase Free H ₂ O		10 μ l
Total		40 μ l

* 1 : 対象機種

- Thermal Cycler Dice Real Time System III (Cy5) with PC (製品コード TP990)
- Thermal Cycler Dice Real Time System II (製品コード TP900/TP960 : 終売)
- Thermal Cycler Dice Real Time System Lite (製品コード TP700/TP760)
- CronoSTAR 96 Real-Time PCR System シリーズ (製品コード 640231/640232)
- CronoSTAR Portable Real-Time PCR System シリーズ
(製品コード 640247/640249)
- CFX96 Touch Deep Well Real-Time PCR Detection System (Bio-Rad 社)
- CFX96 Touch Real-Time PCR Detection System (Bio-Rad 社)
- LightCycler 96 System/ LightCycler 480 System II (Roche Diagnostics 社)

【ROX Reference Dye を使用する場合*2】

[1 反応分のマスターミックス]

試薬		使用量
RT-qPCR Mix	2 \times	25 μ l
Primer/Probe Mix (SARS-CoV-2)	10 \times	5 μ l
ROX Reference Dye/Dye II*3	50 \times	1 μ l
RNase Free H ₂ O		9 μ l
Total		40 μ l

* 2 : 対象機種

Applied Biosystems 7500 Fast Real-Time PCR System
QuantStudio 5 Real-Time PCR System (96-well, 0.2 mL block)
(ともに Thermo Fisher Scientific 社)

* 3 : * 2 の 2 機種では ROX Reference Dye II を使用します。

2) マスターミックスの分注 (エリア 3 で実施)

[注意] 分注操作は室温で行ってください。氷上で行うと、リアルタイム RT-PCR 反応実施時の温度変化により蛍光検出に影響を及ぼす場合があります。調製後は速やかに反応を開始してください。

- (1) 前処理済のチューブを軽くスピンドウンし、チューブの蓋を外す (この蓋は捨てる)。
- (2) 前処理済の溶液にマスターミックスを 40 μ l ずつ添加する。
- (3) NC および PC 用のチューブにマスターミックスを 40 μ l ずつ分注する。
- (4) NC および PC 用のチューブに以下の溶液 10 μ l を添加する。

陰性コントロール (NC)

RNase Free H₂O 10 μ l

陽性コントロール (PC)

Positive Control RNA (US N1/N2) (1/100 希釈) 1 μ l

RNase Free H₂O 9 μ l

- (5) チューブの蓋 (新しいもの) をする。

3) リアルタイム RT-PCR 反応の実施

以下の条件で反応を実施する。

[注意] 反応前に必ずチューブやプレートをスピンドウンし、内壁への反応液の付着や気泡がないことを確認してください。気泡があると、蛍光検出に影響を及ぼす場合があります。

<反応条件>

(1) 逆転写反応

52°C 5分

95°C 10秒

(2) PCR : 45 サイクル

95°C 5秒

60°C 30秒 (蛍光検出 : Cy5)

※ Thermal Cycler Dice Real Time System III では、Speed は Fast を選択し、解析する際に正規化補正を OFF にしてください。

※ Applied Biosystems 7500 Fast Real-Time PCR System、QuantStudio 5 Real-Time PCR System では Run mode/Ramp speed を Fast に設定してください。

■プロトコール B

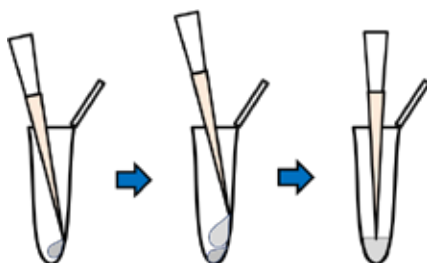
VII-1. 前処理 (核酸の簡易抽出) (BSL2 実験室内で実施)

- 1) サンプルと前処理試薬の混合 (安全キャビネット内で実施)
 - (1) サンプル数分のチューブを用意する。
 - (2) チューブに Solution A を $4 \mu\text{l}$ ずつ分注する。
 - (3) (2)のチューブにサンプルを $16 \mu\text{l}$ 添加し、数回のピペッティングで混合する (または、チューブの蓋をした後にタッピングで混合し、スピンドアウンする)。

[1 反応分の混合液]	使用量
Solution A	$4 \mu\text{l}$
サンプル	$16 \mu\text{l}$
Total	$20 \mu\text{l}$

[操作上の注意点]

液量が少ないので、(2)のステップで Solution A は、チューブ壁の下の方に分注してください。その後、(3)のステップでサンプルを Solution A と同じところに添加し、そのまま数回ピペッティングして溶液を混合 (または、チューブの蓋をした後にタッピングで混合) します。



- 2) 室温で 5 分以上静置後、以下の熱処理を行う。*1

95°C 5 分 ($\rightarrow 4\sim 10^{\circ}\text{C}$ *2)

- * 1 : $20 \mu\text{l}$ の溶液を確実に熱処理可能な機器で実施してください。
- * 2 : 加熱処理後は、速やかにリアルタイム RT-PCR 反応液に添加し、反応を開始してください。前処理済の溶液を一時保存する場合は、氷上または 4°C で保存してください。

VII-2. リアルタイム RT-PCR 反応

【コントロール反応について】

結果の判定を正しく行うため、陰性・陽性コントロール反応を行ってください。
それぞれ、以下の溶液をリアルタイム RT-PCR 反応の鑄型として添加します。

陰性コントロール (NC)

RNase Free H₂O 10 μ l

陽性コントロール (PC)

Positive Control RNA (US N1/N2) (1/100 希釈) * 1 μ l

RNase Free H₂O 9 μ l

* : 2 μ lのPositive Control RNA (US N1/N2) に 198 μ lのEASY Dilution (for Real Time PCR) を加えて調製した 1/100 希釈溶液を使用します (用時調製)。

- 1) リアルタイム RT-PCR 反応液のマスターミックスの調製 (エリア 1 で実施)
以下の組成で、必要数 (サンプル数 + NC, PC) + α のマスターミックスを氷上で調製する。

【ROX Reference Dye を使用しない場合*1】

[1 反応分のマスターミックス]

試薬		使用量
RT-qPCR Mix	2 \times	25 μ l
Primer/Probe Mix (SARS-CoV-2)	10 \times	5 μ l
RNase Free H ₂ O		10 μ l
Total		40 μ l

* 1 : 対象機種

- Thermal Cycler Dice Real Time System III (Cy5) with PC (製品コード TP990)
- Thermal Cycler Dice Real Time System II (製品コード TP900/TP960 : 終売)
- Thermal Cycler Dice Real Time System Lite (製品コード TP700/TP760)
- CronoSTAR 96 Real-Time PCR System シリーズ (製品コード 640231/640232)
- CronoSTAR Portable Real-Time PCR System シリーズ
(製品コード 640247/640249)
- CFX96 Touch Deep Well Real-Time PCR Detection System (Bio-Rad 社)
- CFX96 Touch Real-Time PCR Detection System (Bio-Rad 社)
- LightCycler 96 System/ LightCycler 480 System II (Roche Diagnostics 社)

【ROX Reference Dye を使用する場合*2】

[1 反応分のマスターミックス]

試薬		使用量
RT-qPCR Mix	2 \times	25 μ l
Primer/Probe Mix (SARS-CoV-2)	10 \times	5 μ l
ROX Reference Dye/Dye II*3	50 \times	1 μ l
RNase Free H ₂ O		9 μ l
Total		40 μ l

* 2 : 対象機種

Applied Biosystems 7500 Fast Real-Time PCR System
QuantStudio 5 Real-Time PCR System (96-well, 0.2 mL block)
(ともに Thermo Fisher Scientific 社)

* 3 : * 2 の 2 機種では ROX Reference Dye II を使用します。

[注意] 以下 2)、3) の分注操作は室温で行ってください。氷上で行うと、リアルタイム RT-PCR 反応実施時の温度変化により蛍光検出に影響を及ぼす場合があります。調製後は速やかに反応を開始してください。

2) マスターミックスの分注 (エリア 1 で実施)

qPCR 用のチューブにマスターミックスを 40 μ l ずつ分注する。

3) 鑄型の添加 (エリア 3 で実施)

- ・サンプル：前処理済の溶液を 10 μ l 分取し、添加する。
- ・コントロール：NC および PC として以下の溶液を 10 μ l 添加する。

陰性コントロール (NC)

RNase Free H₂O 10 μ l

陽性コントロール (PC)

Positive Control RNA (US N1/N2) (1/100 希釈) 1 μ l

RNase Free H₂O 9 μ l

4) リアルタイム RT-PCR 反応の実施

以下の条件で反応を実施する。

[注意] 反応前に必ずチューブやプレートをスピンドアウンし、内壁への反応液の付着や気泡がないことを確認してください。気泡があると、蛍光検出に影響を及ぼす場合があります。

<反応条件>

(1) 逆転写反応

52°C 5分

95°C 10秒

(2) PCR : 45 サイクル

95°C 5秒

60°C 30秒 (蛍光検出 : Cy5)

※ Thermal Cycler Dice Real Time System III では、Speed は Fast を選択し、解析する際に正規化補正を OFF にしてください。

※ Applied Biosystems 7500 Fast Real-Time PCR System、QuantStudio 5 Real-Time PCR System では Run mode/Ramp speed を Fast に設定してください。

VII-3. 判定 (プロトコル A・B 共通)

反応終了後、増幅曲線を確認し、解析パラメータが適切であることを確認し*、Ct 値を算出する。

*：解析方法は、ご使用のリアルタイム PCR 装置の取扱説明書をご参照ください。

【コントロール反応の判定】

	正しい結果
陰性コントロール	不検出
陽性コントロール	$Ct \leq 30$

- ・ 陰性コントロールは、不検出であることを確認する。
Ct 値が算出された場合は、コンタミネーションの疑いがある。反応液の調製場所や器具類を除染したうえで再反応を行う。
- ・ 陽性コントロールは、Ct 値が 30 以下であることを確認する。
Ct 値が 30 より大きい場合、または不検出となる場合は、何らかの原因でリアルタイム RT-PCR 反応や検出が正常に行われていない。再反応を行う。

【サンプルの測定結果の判定】

Ct 値	判定
≤ 40	陽性
> 40 または 不検出	検出限界以下*

- ・ Ct 値が 40 以下の場合は、陽性と判定する。
- ・ Ct 値が 40 より大きい場合または不検出 (Ct 値が算出されない) の場合は、検出限界以下と判定する。
- *： 検出限界以下と判定された場合でも、40 サイクルより後で増幅曲線の立ち上りが認められた場合には、低コピーの新型コロナウイルス遺伝子が存在する可能性があります。

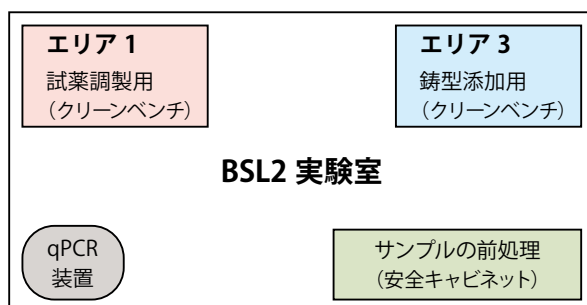
VIII. 補足：エリア分けについて

サンプルの取り扱い、BSL2 実験室の安全キャビネット内で行います。また、前処理が完了するまでは感染性を有する場合がありますので、BSL2 実験室内で実施してください。リアルタイム RT-PCR 反応液の調製は、BSL2 実験室内で行う必要はありませんが、試薬へのコンタミネーション防止のため、エリア 1 とエリア 3 の区分けをすることをお勧めします。

- エリア 1：PCR 反応試薬のみを扱うエリア（鋳型核酸の持ち込み禁止）
- エリア 3：主に鋳型核酸を扱うエリア

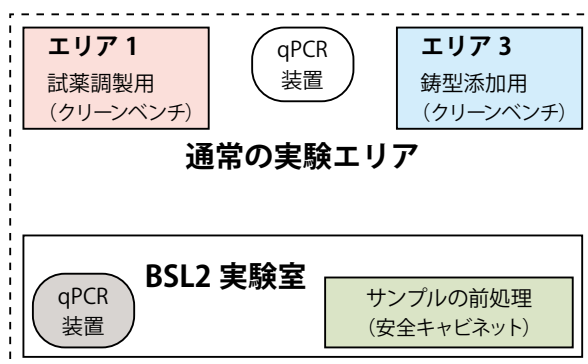
以下にプロトコール A で実施する際のエリア分けの例を示します。

【BSL2 実験室内ですべての操作を実施する場合】



1. 安全キャビネットですンプルと前処理試薬を混合する。
2. qPCR 装置で前処理液の熱処理を行う。
3. エリア 1 のクリーンベンチでリアルタイム RT-PCR 反応のマスターミックスを調製する。
4. エリア 3 のクリーンベンチで前処理後の溶液にマスターミックスを添加する。
5. NC、PC の添加もエリア 3 のクリーンベンチで行う。
6. qPCR 装置でリアルタイム RT-PCR を実施する。

【BSL2 実験室内で前処理までの操作を実施する場合】



<BSL 実験室内で>

1. BSL2 実験室内の安全キャビネットですンプルと前処理試薬を混合する。
2. BSL2 実験室内の qPCR 装置で前処理液の熱処理を行う。

<通常の実験エリアで>

3. エリア 1 のクリーンベンチでリアルタイム RT-PCR 反応のマスターミックスを調製する。
4. エリア 3 のクリーンベンチで前処理後の溶液にマスターミックスを添加する。
5. NC、PC の添加もエリア 3 のクリーンベンチで行う。
6. qPCR 装置でリアルタイム RT-PCR を実施する。

IX. 関連製品

RNase-free Water (製品コード 9012)
EASY Dilution (for Real Time PCR) (製品コード 9160)
Thermal Cycler Dice® Real Time System III (製品コード TP950 など)
CronoSTAR™ 96 Real-Time PCR System シリーズ (製品コード 640231/640232)
CronoSTAR™ Portable Real-Time PCR System シリーズ (製品コード 640247/640249)
0.1 ml 8-strip -neo- tube & cap Set (製品コード NJ907)
0.2 ml Hi-8-Tube (製品コード NJ300)
0.2 ml Hi-8-Flat Cap (製品コード NJ302)
0.1 ml 8-strip tube, individual Flat Caps (製品コード NJ902)
0.2 ml 8-strip tube, individual Flat Caps (製品コード NJ600)

X. 注意

- ・ 本製品は研究用試薬です。ヒト、動物への医療、臨床診断には使用しないようご注意ください。また、食品、化粧品、家庭用品等として使用しないでください。
- ・ タカラバイオの承認を得ずに製品の再販・譲渡、再販・譲渡のための改変、商用製品の製造に使用することは禁止されています。
- ・ ライセンスに関する情報は弊社ウェブカタログをご覧ください。
- ・ Thermal Cycler Dice はタカラバイオ株式会社の登録商標です。CronoSTAR はタカラバイオ株式会社の商標です。その他、本説明書に記載されている会社名および商品名などは、各社の商号、または登録済みもしくは未登録の商標であり、これらは各所有者に帰属します。

製品についての技術的なお問い合わせ先

テクニカルサポートライン

Tel 077-565-6999 Fax 077-565-6995

ウェブサイト <https://www.takara-bio.co.jp>

タカラバイオ株式会社